

2026年9月開講(連続講座)
—わがことの備えを地域を守るカヘー

防災と減災のための リスクマネジメント

大学コンソーシアム京都発行
オープンバッジ対象講座

参加方法

講義(対面・オンライン)

全8回

定員:対面38名(場所:キャンパスプラザ京都)・オンライン100名

全8回セットでの受講を推奨しますが、1回単位での受講も可能です。

※オプション「体験型防災まち歩きワークショップ」は
京都市市民防災センターとその付近で実施します。

災害多発時代の今、私たちには単に被害を防ぐ「防災」だけでなく、被害を最小限に抑える「減災」や「レジリエンス」の視点が求められています。

本プログラムでは、防災・減災を知識として学ぶだけでなく、自らの生活や職場、地域課題に結びつけ、「わがこと」として実践できる力を育むことを目的とします。超少子高齢化、人口減少、多文化共生、情報混乱など、複雑化する社会課題を踏まえながら、災害時に「誰かに助けてもらう」のを待つのではなく、自律的に判断・行動し、他者や地域を支え合うための知識・判断力・コミュニケーション力を養うことを目指します。家庭、地域、職場、旅先など多様な場面で、「自ら助かり、他者を助ける」具体的な知恵と行動力を身につけ、持続可能でレジリエントな地域社会の形成を目指しましょう。

申込締切

2026年9月21日(月)

1回単位での受講のお申し込みは各講義日の5日前まで

右記2次元コードからお申し込みください。



お申し込みはこちらから
(大学コンソーシアム京都HP)

受講料

全8回セット:8,000円(税込)

【オプション1回】

体験型防災まち歩きワークショップ:1,000円(税込)

1回単位での受講の場合:1回1,000円(税込)

※受講料は講座運営および資料作成等に係る費用としてお支払いいただくものです。

※オプションの「体験型防災まち歩きワークショップ」のみの受講はできません。

●講義概要

<全8回/オプション「体験型防災まち歩きワークショップ」1回>

コーディネーター

諫山 憲司（明治国際医療大学防災救急救助研究所教授）【2026年～】
山口 洋典（立命館大学共通教育推進機構教授）【2025年～】

回	日	時	テーマ	タイトル	担当	概要
1	9/26 (土)	13:30 ～ 15:00	DCP (地域継続計画)	BCPを超えて 地域継続へ つなぐ実践知	諫山 憲司 明治国際医療大学 防災救急救助研究所 教授	災害時、個々の施設や企業がBCP(事業継続計画)を策定していても、地域全体の機能が維持されなければ十分な対応はできません。本講義では、BCPの限界と可能性を踏まえながら、地域全体で備えるDCP(地域継続計画)の考え方を学びます。地域資源や人とのつながりを活かした災害に強い地域づくりについて考えます。
2		15:15 ～ 16:45	外国(人との) 防災	世界の事例から 考える防災教育の これから —日本の防災に生かすには?—	中野 元太 京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 准教授	世界各地で、様々な防災教育・地域防災の取り組みが行われています。この講演では、講演者が長年かかわってきた南アジア地域や中米地域における地域住民主体の防災活動や、防災リーダーの育成について取り上げ、世界の事例を通して日本での防災のあり方について考える機会とします。
3	10/24 (土)	13:30 ～ 15:00	防災対策	関係性から紡ぐ 防災・減災の 可能性	石原 凌河 龍谷大学 政策学部 准教授	次なる大災害から命を守るために、防災・減災の重要性は広く認識されています。しかし、それを日頃から自分ごととして捉え、行動に移すことは容易ではありません。本講義では、人と人、人と地域との関係性から紡がれる防災・減災の実践事例を紹介しながら、主体的に防災・減災に取り組むためのヒントを探ります。
4		15:15 ～ 16:45	災害と子ども	災害時に 子どもを支える マインド(として)の 子どもたちに注目して	伊藤 駿 京都教育大学 教育創生リージョナル センター機構 総合教育臨床センター講師	本講義では防災・減災の中でも、特に子どもに注目して、そのあり方を実際の災害の事例をもとに考えていきます。子どもは対大人という観点にたてばマイノリティの立場に置かれますが、そうした子どもたちの中でもより不利になりやすい子どもたちもいます。そうした複層性にも注目しながら、防災・減災のあり方を考えます。

【オプション】 体験型防災まち歩きワークショップ

11/21 (土) 10:00～11:30 「京都市市民防災センター見学と防災まち歩き」<20名・任意参加>
地震や大雨に対する被害想定やまちの備えを探します。(案内:太田 興氏)

5	11/21 (土)	13:30 ～ 15:00	自主防災	自主防災 地域住民の役割 「立ち向かう防災」活動事例	太田 興 防災寺子屋・京都 代表	阪神・淡路大震災の経験をもとに、「地域こそが災害対応の最前線である」との意識を持って地域や学校で防災啓発活動を展開しています。地域住民や児童生徒が「自分ごと」にするための工夫、小学校の総合的な学習時間での授業内容などもご紹介いたします。
6		15:15 ～ 16:45	防災情報	防災に対する 情報工学からの アプローチ 避難行動支援と思い出情報の 活用に関する取り組み	泉 朋子 立命館大学 情報理工学部 教授	情報システムは災害時の避難行動支援から、災害後の心の復興支援まで幅広く活用できます。本講義では、特に、個々人が有するスマートフォンを用いた避難誘導の取り組みと、写真・音声・テキストなどの思い出情報を活用した心の復興支援の取り組みについて紹介いたします。
7	12/12 (土)	13:30 ～ 15:00	リスク コミュニ ケーション	ケアとしての避難 —「自らの命は 自らが守る」を疑う	松田 曜子 京都大学防災研究所 巨大災害研究センター 准教授	災害への備えが大切であることを説くために、よく「自らの命は自らが守る」という言葉を耳にします。しかし、本当の意味で自分一人だけで自分を守り切れる人はどこにもいません。地域で一番助けが必要な人の声を聴くこと、普段から場所とつながりを育てることなど、ケアと防災の関係について事例を交えてお話します。
8		15:15 ～ 16:45	ボランティア	被災地のリレー 「恩送り」から 助け合いの社会を考える	大門 大朗 福知山公立大学 地域経営学部 准教授	地震や豪雨などの災害が相次ぐなか、かつて支援を受けた地域が、次の被災地を支援する「恩送り」の輪が広がっています。なぜ人々は支援をつなぐのでしょうか。全国の実例や調査結果をもとに、災害時だけでなく平時にも生かせる助け合いの仕組みについて考えます。

●お申し込みにあたって

(1)主な受講対象

社会人の方(会社員、公務員、大学教職員、ボランティアスタッフ等、業種・職種・専門知識の有無は問いません。)へ受講を推奨します。

(2)お申し込み後の対応について

講座中止の場合を除いて、受講料の返金はいたしかねますのでご了承ください。都合により講座の延期や中止、内容変更等が生じる場合がございます。変更の際には、大学コンソーシアム京都ホームページの「重要なお知らせ」及びお申し込み時のメールアドレス宛にご連絡いたします。

(3)京カレッジ会員について

お申し込み時に希望された方は、受講料のご入金確認後に京カレッジ会員証(会員費:無料)を発行いたします。京カレッジ会員の特典として、京カレッジ募集ガイドに記載されている各大学・短期大学の図書館が利用可能となります。(利用については、各館の規定や指示に従いご利用ください。)

※詳細は右記2次元コードよりご確認ください。

(4)お問い合わせ先

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る
キャンパスプラザ京都内 大学コンソーシアム京都「リカレント担当」

TEL:075-353-9140 FAX:075-353-9121 【お問合せ受付時間】火～土曜 9:00～17:00



京カレッジ募集ガイド
図書館利用一覧

主催：京都市・公益財団法人 大学コンソーシアム京都

協力：立命館大学災害危機レジリエンス研究センター

発行：京都市 総合企画局 国際都市共創推進室

京都市印刷物 第081272号 令和8年8月

この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ

